

別所、あと一本及ばず 吉川の連覇をゆるす

第31回三木市青少年健全育成剣道大会 於吉川体育館

10月14日(日)、会場を吉川体育館に借り、教室対抗戦である「第31回三木市青少年健全育成剣道大会」が、三木市教育委員会、三木市防犯協会などの後援を得て、選手80名の参加で行われた。

9時30分から開会式が始まり、会長挨拶のほか来賓として来られた松本三木市教育長より選手激励の祝辞があった。

前年度優勝の「吉川剣道少年団」から優勝杯の返還、志染スポーツ少年団剣道部の照井瑞生選手が選



力強く宣誓する照井選手

手宣誓を行った。

試合は小学生団体試合(10チーム)、中学生個人試合(20名)が並行して4つのコートで行われた。小学生男子団体戦はA、B、Cのリーグ戦が最初戦われ、Aリーグから吉川剣道少年団A、Bリーグ



優勝した吉川剣道少年団の選手たち

から別所少年剣道教室A、Cリーグから自由が丘少年剣道教室が勝ち上がり、三者三つ巴で総当たり戦。結局吉川チームが追いつくが別所チームを勝者2-2の同数ながら僅か1本差でかわし、連覇を果たした。別所としては悔やみきれない一戦だった。3位は自由が丘チーム。

女子団体は、最近の女子選手の不足を反映して各教室ともチームが組めず、



女子の部優勝 三木中央
少年剣道教室
が丘の2
チームのみ。
三木中央が
緑が丘を突
き放して勝
利した。

中学生個人は横山暖が優勝、女子は三藤暢子

中学生の個人戦は三木中・自由中の剣道部員の争い。

男子では、先の三木市内中学校の新人戦で覇者となった今福太一が同じ自由中の横山暖に敗れ、覇者が入れ替わった。



中学生男子個人戦 入賞者

女子は出場者が少なく、ライバル対決に。吉川の三藤暢子が、自由が丘の内村友美を降し、優勝した。

【成績】

○小学生団体(優勝)吉川剣道少年団(準優勝)別所少年剣道教室(3位)自由が丘少年剣道教室

○小学生女子(優勝)三木中央少年剣道教室

○中学生個人男子(優勝)横山暖(自)(準優勝)今福太一(自)(3位)中谷琢哉(三)桑博登(三)

同女子個人(優勝)三藤暢子(吉)(準優勝)内村友美(自)

三木高善戦惜しくも入賞逸す

―東播高校新人戦―10月6・7日於県農

平成24年度第47回東播総合体育大会剣道大会兼県高等学校新人剣道大会地区予選大会が、10月6・7日、県立農業高校を会場に行われ、三木市内の、今年は吉川も含め、4高校が揃って出場しました。

三木高校は、男子団体戦に於いて、予選リーグ、小野工に3―1、第一シード校明石を4―0、明石清水に3―2とリーグ1位で、10年ぶりに決勝トーナメント戦に進めましたが、社高に0―1の僅差で敗れ、入賞を逸しました。しかし、県大会への出場権を獲得しました。

他に三木北高も、予選リーグでは3位と振るわず、敗者復活戦にまわりましたが、播磨南、明石北などに勝ち、これまた県大会出場権を得ました。他の三木東・吉川は男子団体戦には出場しませんでした。

唯一女子団体戦に出場した三木東チームは、予選リーグでは強豪チーム(東播磨・加古川東・高砂南

の中で苦戦し、1勝もできませんでしたが。

個人戦では、女子の杉正さん(三木東高校)が5回戦に進出、ベスト8となり、県大会出場権を得ました。他はいずれも上位には入れませんでした。

東播新人戦に対する武中敏彦先生(三木高校剣道部顧問)のコメント以下の通り。

三木高校

個人戦は、男子4名が出場しましたが、力不足で県大会出場はなりませんでしたが。

男子団体戦は、10年ぶりに予選リーグを勝ち上がり決勝トーナメントに進出しました。決勝トーナメント1回戦で社高校に僅差で敗れ、入賞を逃しました。しかし、予選リーグで第一シードの明石を破つたことは自信になり、県大会に期待したいと思えます。

三木北高校

個人戦は昨年度、前川が男子で3位入賞しており今年度も期待し

ていましたが、あと一つの壁が越えられず県大会出場権を得ることはできませんでしたが。

男子団体戦は、予選リーグが厳しい組み合わせで、前線はしましたが結果的に3位となり、敗者復活戦に望みを託しました。(加古川東が優勝)敗者復活戦では難なく勝ち上がり、県大会出場権を得ました。

三木東高校

個人戦は2年ぶりに出場した女子の部で、杉正がベスト8に入り、県大会出場権を獲得しました。

団体戦は、男子は残念ながら部員不足で出場できませんでしたが、代わって女子が3名ながら7年半ぶりに東播大会団体出場を果たしました。女子は参加校の関係で11月の県大会にも出場が決定しています。

吉川高校

女子個人戦に2名が出場し、数年ぶりの東播大会参加となりました。剣道部員が居ない状態が数年続いていましたが、今年度、大西先生が着任され復活しました。2名とも初心者のため、残念ながら緒戦で敗れましたが今後に期待したいと思えます。

三木高

緒戦を突破!

だが滝二には及ばず

第59回兵庫県高等学校新人剣道大会

各地区大会を経て行われる、第59回兵庫県高等学校新人剣道大会兼第23回高砂市長杯争奪高等学校剣道大会は、11月10日(土)・11日(日)の両日、高砂市総合体育



三木高チームのぞむに団体戦

館で行われた。

三木市からは、男子団体に三木高・三木北高、女子団体に3名編成ながら三木東高が出場した。また、男女個人戦に唯一地区予選を勝ち

抜いたベスト16以上、三木北は2回戦の相生産業を視野に入れ、1回戦は神戸科学技術と対戦したが、惜しくも本数差で敗退した。

三木は1回戦、淡路2位の津名と対戦、少し硬さが見られたが4-1で快勝。2回戦は昨年度優勝校の滝川第二と対戦したが、力の差を見せつけられ0-5で完敗した。



三木地区で唯一個人戦に出場した三木東高 杉正選手(左)

女子個人戦出場の杉正は一回戦東洋大姫路の徳田と対戦し、粘り強く戦ったが、コテを一本取られ残念ながら緒戦で退いた。

11日は女子団体戦。三木東のみ出場。三木東は3名で出場し、緒戦を突破するかと思われたが、3名の不戦負けのハンデイは大きく、杉正、西尾が勝利したが結果的には2-3で浜坂に敗れた。

三木高校剣道部監督

武中先生のコメント

今年度、高体蓮主催の大きな大会はこれが最後となりますが、各校とも目標としていた昨年を上回る結果を残せませんでした。冬の間に力をつけ、来年度の大会は今年度以上の結果東播大会入賞、県大会ベスト8以上を報告できればと思います。

三木東を中心に例年ホースランドで行っていた春の合同合宿を、今年度は3月26日、28日に計画しております。今年度は三木東・三木北に加えて三木高も加わり、7校(他に社・小野工・柏原・三田祥雲館)約70名で行います。日程・内容が確定すれば改めて連絡させていただきますので、三木剣連の先生方のご指導ご協力をよろしくお願いたします。



大会見学中のドイツ青少年指導者セミナーの役員たち

第101回三木市剣道連盟級位認定審査会 に37名が挑戦 平成24年12月1日(土)

於 三木コミュニティスポーツセンター

今回、初めて12月に級位認定審査会が、三木コミュニティスポーツセンターにおいて開催されました。今年から年2回(6・12月)に変わっております。一方、受審者数は37名で、第87回の審査会以来の多い人数となっております。

開会にあたって、三木市剣道連盟神澤副会長より、この審査会では正しい剣道をしているかを審査します。普段の稽古通りのことを



受審者が増加。元気よく審査を受ける受診者と審査員

してください。大きい声を出すことができれば、自信が付き、先生方から教えられていることができます。それが合資格に繋がります。全員頑張ってください。とのお話がありました。

「木刀による剣道基本技稽古法」の講習会については、3級(6本まで)は安栖先生が主任として、2級(9本まで)は小椋先生が主任として、



2・3級受審者に木刀による基本技稽古法を指導している様子

各教室の指導者も手伝って行われ
ました。今回は予定（SC21の剣
道大会）が詰まっていたため、短時
間になったことと、各教室での教え
が不足していたように思えた。各
教室でも生徒に普段から教えてほ
しいと思います。

各教室の指導陣や子供達の交
流・親睦を図るため、合同稽古を
行っております。今回は基本稽古
も取り入れて行いました。傾向と
して、子どもの参加人数が増加し
ております。多数の先生方も参加
されることを期待しています。

審査会の結果、審査員、合同稽
古参加者数については、別表のお
りです。 少年指導部 大柴 記

第101回 級位認定審査会結果 一覧表

場所：三木コミュニティスポーツセンター
日時：2012/12/09

	受審者数	合格者数	合格率	審査員
中央	6	6	100.0%	安栖 先生
緑が丘	4	4	100.0%	神澤 先生
志染	2	2	100.0%	小椋 先生
口吉川	7	7	100.0%	戸田 先生
自由が丘	11	11	100.0%	大西 先生
別所	3	3	100.0%	
剣修会	4	3	75.0%	
合計	37	36	97.3%	

	受審者	合格者	合格率
2級	6	6	100.0%
3級	12	12	100.0%
4級	6	5	83.3%
5級	13	13	100.0%
計	37	36	97.3%

昇級審査終了後合同稽古会開催

小学生	35分	57名
大人	15分	20名



月々の便り

丹野骨平（いっぺい）

神無月留守詣

瑞穂の国は 千五百秋 ちいほ

されど秋津は 少なかり

瑞穂の国は 千五百秋

稲木立つのは 一三三三

瑞穂の国は 千五百秋

角兵衛獅子は 足慣らし

瑞穂の国は 千五百秋

磐城の里は 棄て田圃

瑞穂の国は 千五百秋

畦に速なる 赤まなま

《注釈》

千五百秋：限りなく長い年月、永遠

（紀・神代・上）豊葦原の千五百秋の瑞穂の

地有りー豊かな葦原をもつ永遠に良い

稲の多く実る国がある。

秋津：蜻蛉（とんぼ）の古名

磐城：旧国名東山道十三か国の一つ。

今の福島県東部および宮城県南部

赤まなま：イヌタテ

霜月のあはれ

己おれ気つかぬ 木の葉髪

何時も達者と思ひ込み

己気つかぬ 木の葉髪

背負ひし籠に 隠し紅

己気つかぬ 木の葉髪

挿す簪（かんざし）の 少しすれ

己気つかぬ 木の葉髪

赤き禪（たすき）で 朝市に

己気つかぬ 木の葉髪

話す言葉も 若きまま

